

# 第1回 出雲市水道事業推進懇話会 会議録

1. 開催日時 平成29年9月29日(金) 14:00~16:00

2. 開催場所 出雲市役所3階 市民応接室

## 3. 会議の出席者

### (1) 委員(12名)

井上千晶委員、神谷哲男委員、高野智子委員、佐々木美智子委員

佐藤彰尾子委員、曾田満子委員、園山裕美委員、中川弘美委員

錦織文子委員、福田貴博委員、安井多喜恵委員、山本富子委員

※欠席者2名(足立修司委員、金村英俊委員)

### (2) 出雲市(7名)

田中勤一 上下水道局 局長、今岡範夫 上下水道局 次長兼水道営業課 課長

小村哲雄 水道施設課 課長、宮本俊之 水道施設課 課長補佐

妹尾俊彦 水道営業課 課長補佐、上原和也 水道営業課 主任

岡 貴行 水道営業課 主任

## 4. 次第

### (1) 田中局長あいさつ

### (2) 委嘱書交付

### (3) 委員自己紹介

### (4) 懇話会設置規程について

### (5) 会長・副会長選出

会長：井上千晶委員、副会長：中川弘美委員に決定

### (6) 議題(要旨)

#### 1. 水道事業について

##### ① 水道事業とは

・水道事業は地方公共団体が経営する公営企業であり、独立採算制で料金収入により事業運営している。公営企業は投資した資産を適切に維持し、企業としての経済性を発揮するとともに、公共福祉を増進するよう運営されなければならない。

・出雲市の行政区域には「出雲市水道事業」と「斐川宍道水道企業団」の2つの水道事業体が存在している。

・給水人口は微増しているが、節水意識の高まりと節水型機器の普及により配水量は減少している。

##### ② 企業会計の仕組み

・市役所の会計とは異なる「企業会計」となっていて、予算・決算は「収益的収支」と「資本的収支」の2つに区分されている。

- ・収益的収支は、水道水を家庭まで届けるための経費（維持管理費）で、資本的収支は、古くなった水道管などを新しくするための経費（施設整備費）。
- ・収益的収支では、主な収入は水道料金や水道加入金で、主な支出は人件費・動力費・薬品費など、水源地などの施設の維持管理のための経費。
- ・資本的収支では、主な収入は企業債や工事負担金・国庫支出金で、主な支出は建設改良費・企業債償還金、資本的収支では収支不足が生じる。
- ・収益的収支の純利益に加えて、建設した管路などを再度更新するため留保していた資金を取り崩し、資本的収支の補填財源としている。

### ③組織体制と業務内容

- ・局内に2課（水道営業課・水道施設課）と平田・河南に営業所がある。
- ・検針、料金徴収、水質検査等の業務を行っている。
- ・老朽化した施設・管路を計画的に更新し、耐震性能の向上を図っている。
- ・広報は年1回（12月）発行し、ホームページで情報提供を行っている。

## 2.施設の概要

### ①給水区域

- ・平成29年4月1日から簡易水道事業を上水道事業に統合し、すべて上水道となった。簡易水道とは、給水人口5,000人以下の小規模な水道事業。水系それぞれに水源がある。斐川宍道水道企業団は会計も料金も異なる別事業体である。

### ②施設の名称と役割

- ・来原浄水場は、斐伊川堤防付近に井戸を掘り、その水を浄水場に送って、鉄分等を除去している。
- ・導水管：井戸から浄水場までの管、送水管：浄水場から配水池へ送る管、配水管：配水池から皆さまの家庭まで送る管。配水池は自然に流れるように高い山にある。
- ・水道管はほとんどの道路内に入っていて、寒暖の影響を受けにくい。水道管の延長は、1449km（上水道・平成28年3月末現在）ある。簡易水道は466kmある。水道管の法定耐用年数は40年であるが、実質的な耐用年数は60年程度と思われる。これらを更新していく必要がある。

## 3.平成29年度の主な事業について

### ①出雲市水道事業ビジョンの策定

### ②向山配水池等再構築事業

### （7）主な質疑等（要旨）

（委員）国庫支出金は、どのようなものがあたるのか。

（事務局）基本的に上水道事業に補助事業はないが、震災の関係もあり耐震化事業で一定の基準をクリアしたので、今年は補助対象となった。

(委員) 積立金を出しながら、赤字にならないようにしておられるが、あと何年くらいこの状態を保つことができるのか。

(事務局) 資本的収支は、必ず予算不足が発生し、不足額は収益的収支の減価償却費等を補填財源とする仕組みとなっている。近年は向山配水池等再構築事業等の大型事業をやっているので、約 20 億円不足している。減価償却費等を充当する以上に不足額が発生すると長く続かず資金ショートしてしまい、赤字決算となる。毎年度の事業費、管路更新の事業計画を立てながら、資金ショートを起こさないようにやっていく必要がある。管路の計画的更新や耐震化を進めて行く中では、補填財源を一定程度保ちながら、資金不足を起こさないように計画的な事業を実施するため、料金についても検討する必要があると考えている。

(委員) 料金値上げをしなければやっていけないというのが見えてくるが、一度に上げられるより、少しずつ上げていただければ助かる。

(事務局) 高度経済成長期に布設した管路が一気に更新時期となり、その平準化も図りながら更新を行っていかねばならない。次世代に過度な負担を強いることはないよう、現役世代でも負担しながら、引継いでいくことが必要だと考えている。料金については、水道料金等審議会でも検討していく必要がある。

(委員) 市外・県外からの転勤族の人達はウォーターサーバーを借りて水を飲み、水道水は飲まないのが常識となっていて、出雲に来ててもその価値観は変わらないとのこと。出雲の水を飲みながら育った者としては、ウォーターサーバーなど必要ないし、臭いわけでもまずいわけでもないのも、もっと出雲の安全な水を PR するべき。これらの人が水道水を飲めば、需要が増え、料金を上げなくてもよくなるのではと思う。

(事務局) 水道事業ビジョン策定の中でアンケートを行ったが、直接飲むという方は半分程度であった。PR 不足は認識している。そのようなことも含めてこの懇話会を立ち上げた。普段からおいしい水とか水道施設についてもっと情報発信すべきと考えている。

(委員) 若い人はスマホなどで検索することが多い。「出雲市 水」などで検索し、おいしい水ということがわかれば、水道水を使うのではないか。学校でも重要な事はメール配信にしている。広報もメールなどが良い。ウォーターサーバーの月使用料金よりも、水道料金がずっと安いので、PR をしていただきたい。

(事務局) PR については、この懇話会において事務局からご提案もいたしますし、ご意見がもらえればとも思っている。

(委員) 税金事業とは違っていることを初めて知ったが、水道料金は、他市町と比べてどうなのか。

(事務局) 水道事業は、独立採算で水道料金により事業運営している。県内 8 市では、低い方から 2 番目。口径 13mm20t で 2,896 円/1 か月。県内では、大田市 : 4,914 円。江津市 : 4,723 円、雲南市 3,917 円。企業団は、2,647 円。松江市は 3,531 円。

(委員) 水質的には良いでしょうね。

(事務局) 水はおいしいと自負している。

(委員) 今後は施設の更新が必要なものとなっていくのか。

(事務局) それは当然必要なものと考えている。

(委員) 子どもが県外に出たが、県外の水道水は飲めなくて、浄水器を買ったり、水を買ったりしている。出雲の水がおいしいと言えると思うので、PRできるのではないか。

(委員) 昔は水道管工事の時には、水が濁っていた。最近は断水工事があっても、水が濁ることがなく、すぐにきれいな水が出るようになったので感謝申しあげる。工夫されていることはあるか。

(事務局) 水質の水準を良くしようと努力している関係で濁り水は発生しなくなった。できるだけおいしい水を飲んでいただけるよう、さらに一段上のレベルを目指していきたい。

(委員) 以前のペットボトル事業は、500mlで150円。高かったのではないか。

(事務局) 経営的な面を求められ赤字ということで中止した。ただ、災害時対応に必要であるし、経費も安くして、試算する中で収支トントンであれば、再度立ち上げても良いのではという思いがある。皆さんの意見も伺いながら提案させていただきたい。

(会長) 本日は、水道事業の概要・役割等を少し理解できたのかなと思う。これから市民の意見として発信するために、私たちも勉強しながら、いろいろな情報収集をしながら、懇話会に参加したい。広報に併せて発信しては、という意見があったので、12月発行分に何か検討していただけたらと思う。